

新宿区の子どもと家庭をとりまく状況（追加版）

1 . 人口の状況.....	1
1 - 1 総人口、年齢3区分別人口の推移（修正・追加）.....	1
1 - 2 年齢構造係数の推移（修正・追加）.....	2
1 - 4 18歳未満の児童人口の推移（修正・追加）.....	3
2 . 世帯の状況.....	4
2 - 1 世帯数の推移（修正・追加）.....	4
3 . 子どもに関する人口の状況.....	5
3 - 1 出生数推移（修正・追加）.....	5
3 - 2 合計特殊出生率（修正・追加）.....	6
4 . 子育て支援サービスの実施状況.....	7
4 - 2 保育の実施人員、待機児童数の推移（修正・追加）.....	7
4 - 4 3～5歳児の保育サービスの実施状況（新規）.....	8
5 . 次世代育成支援に関する調査結果.....	9
5 - 1 8 子どもの遊び場（新規）.....	9
5 - 1 9 携帯電話の利用状況（新規）.....	10
5 - 2 0 携帯電話の使用料（新規）.....	11
5 - 2 1 インターネットの利用状況（新規）.....	12
5 - 2 2 携帯電話やパソコンの使用について困ったこと（新規）.....	13

1. 人口の状況

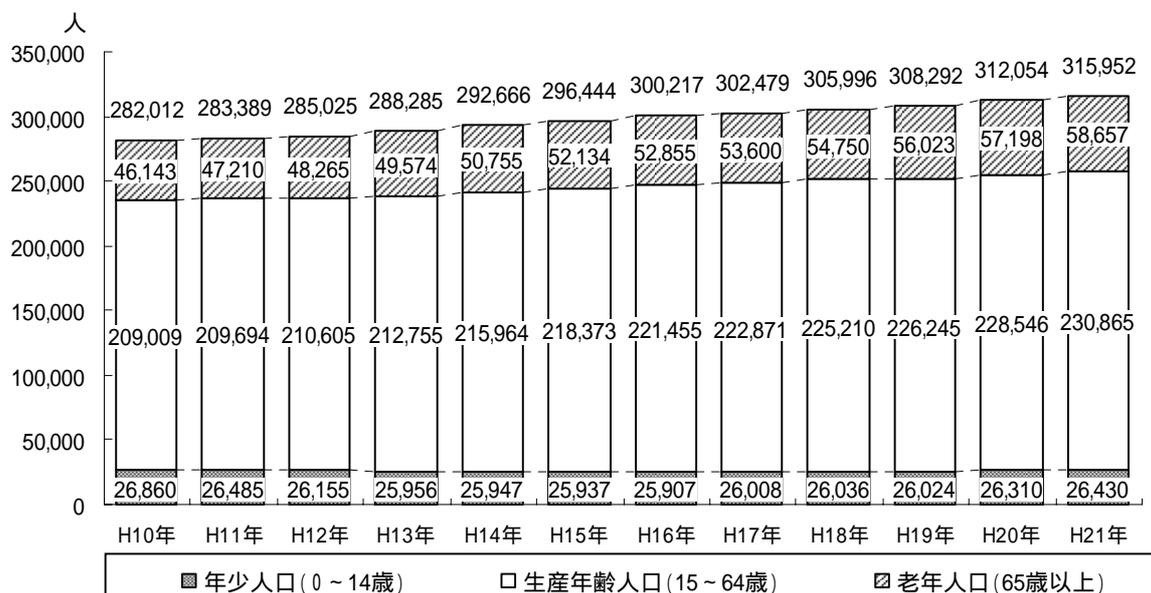
1-1 総人口、年齢3区分別人口の推移 (10~14年データを追加)

平成10年からみると、新宿区では総人口の増加が続いています。

年齢別にみると、15~64歳の生産年齢人口、65歳以上の老年人口において、人口は一貫して増加となっています。

0~14歳の年少人口は、平成10年、11年の2万6千人台から、平成13年から平成16年にかけて2万5千人に減少していましたが、平成16年よりは再び2万6千人台となり、その後微増が続いています。

【年齢3区分別人口の推移】



出典：住民基本台帳（外国人登録者含む）各年4月1日

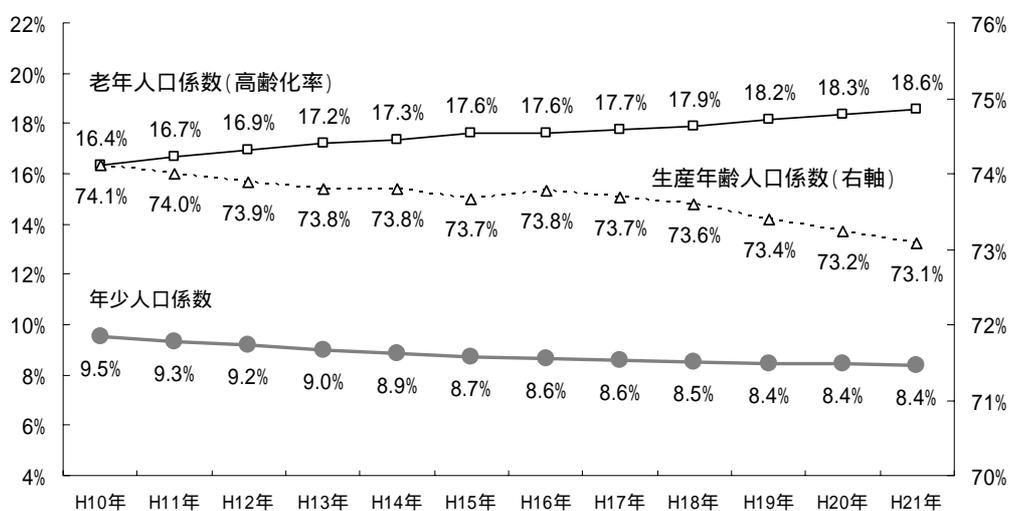
1 - 2 年齢構造係数の推移 (10～14年データ等を追加)

住民基本台帳人口の各年齢人口が、総人口に占める割合を平成10年からみると、年少人口係数は平成13年に9%を切り、平成19年まで一貫して減少していましたが、平成19年から平成21年にかけては8.4%で推移しています。

老年人口係数(高齢化率)は増加が続いており、平成10年から平成21年までの間に、2.2ポイントの増加となっています。生産年齢人口も減少傾向となっています。

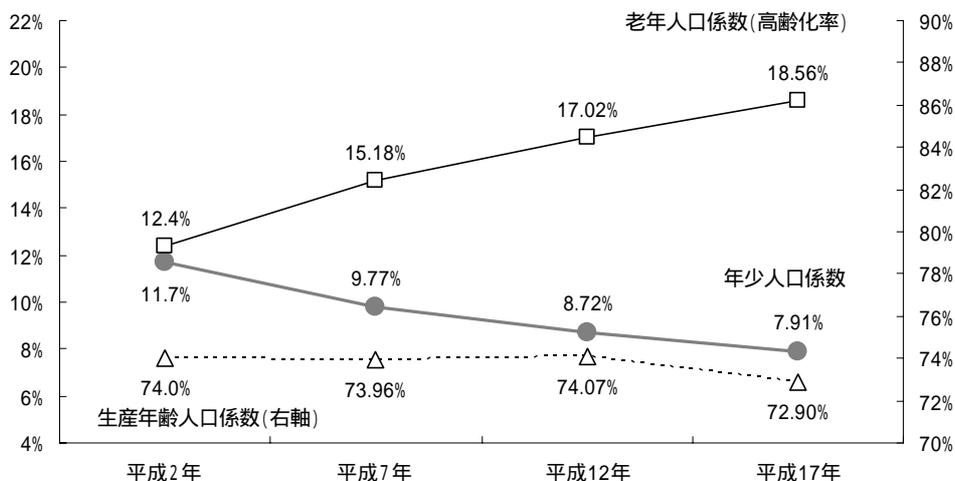
国勢調査では、平成2年から年少人口係数が減少し、老年人口係数(高齢者率)が増加する少子高齢者の傾向がさらに明確になっています。また生産年齢人口係数は平成12年より減少しています。

【年齢構造係数の推移(住民基本台帳、外国人登録者)】



出典：住民基本台帳(外国人登録者含む)各年4月1日

【年齢構造係数の推移(国勢調査)】



出典：総務省「国勢調査」各年

1 - 4 18歳未満の児童人口の推移（10～14年データを追加）

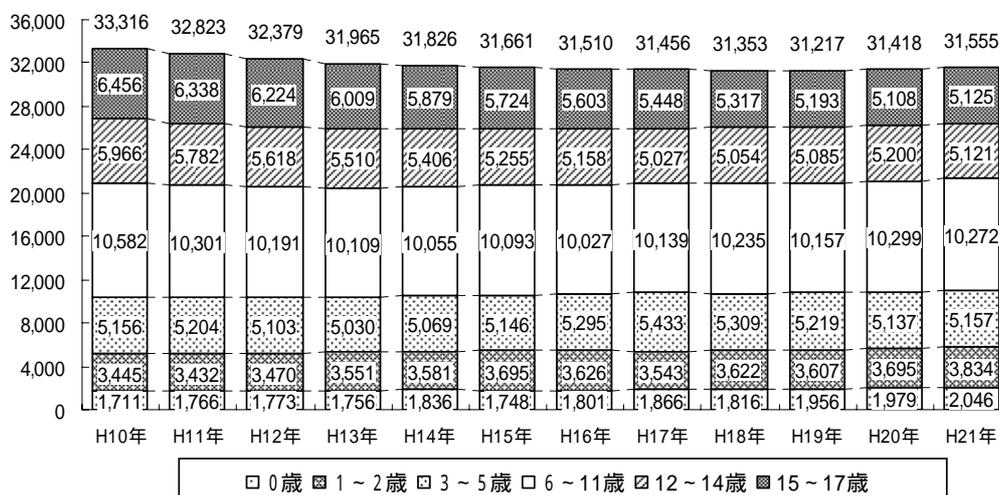
18歳未満の人口は、平成10年から平成19年にかけて減少傾向となっていました、平成20年からは微増に転じています。

平成17年を基準としてみると、平成17年以降、0歳、1～2歳の児童人口が増加しています。また6～11歳の児童人口も年によって増減はあるものの、増加傾向となっています。

12～14歳の児童人口は、平成10年から平成17年にかけて一貫して減少していましたが、平成17年以降は微増となっています。

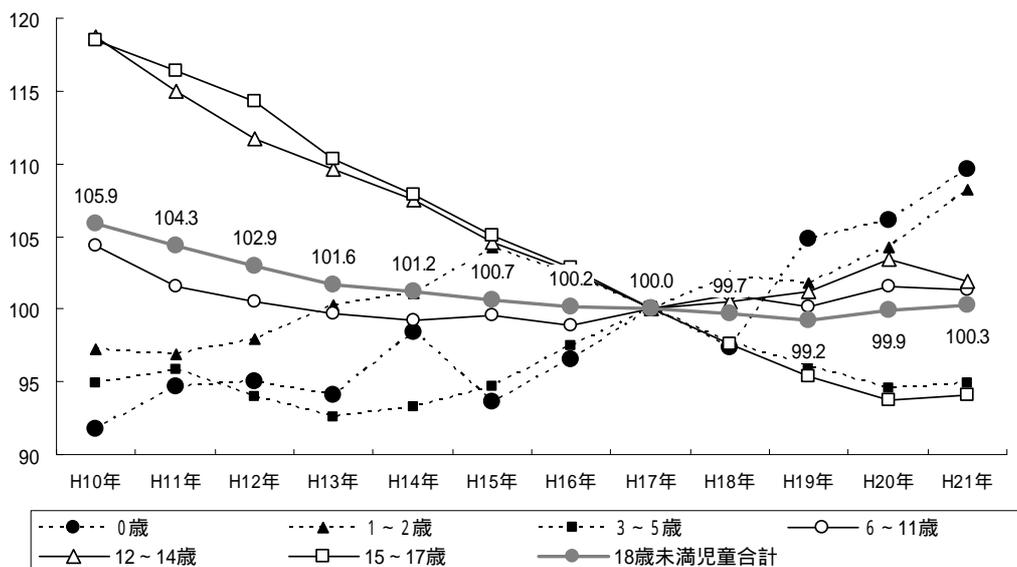
15～17歳の児童人口は平成10年より一貫して減少が続いています。3～5歳の児童人口は平成17年まで増加傾向となっていました、平成17年以降減少しています。

【18歳未満の児童人口の推移】



出典：住民基本台帳（外国人登録者含む）各年4月1日

【18歳未満児童人口の推移（平成17年4月1日現在を100としたもの）】



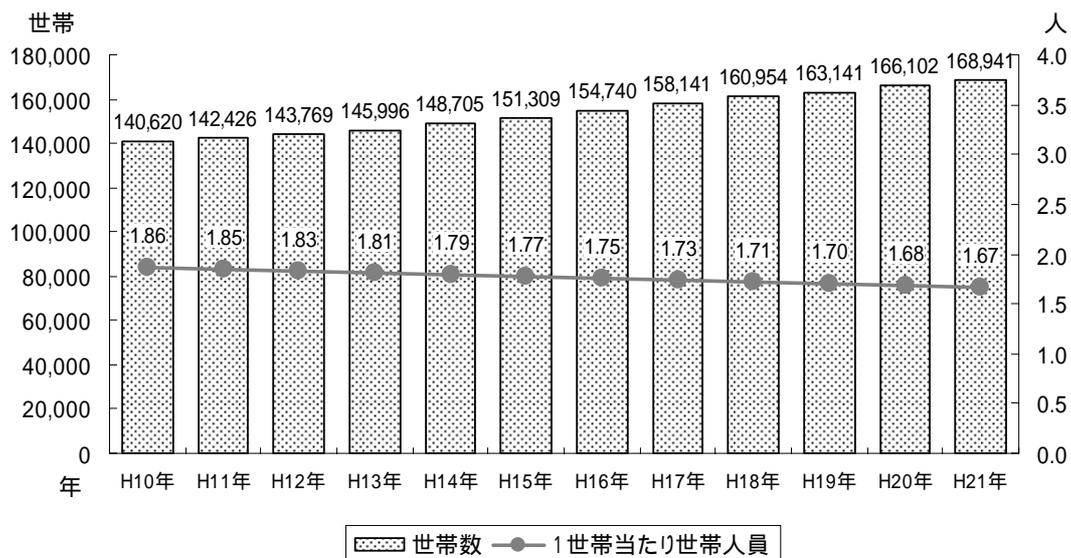
出典：住民基本台帳（外国人登録者含む）各年4月1日

2 . 世帯の状況

2 - 1 世帯数の推移 (10～14年データを追加)

世帯数は平成10年から一貫して増加し、平成10年から平成21年までの間に約28,000世帯が増え、約1.2倍になっています。一方、1世帯当りの世帯人員は減少が続いています。

【世帯数及び1世帯当たり世帯人員の推移】



出典：住民基本台帳（外国人登録者含む）各年4月1日

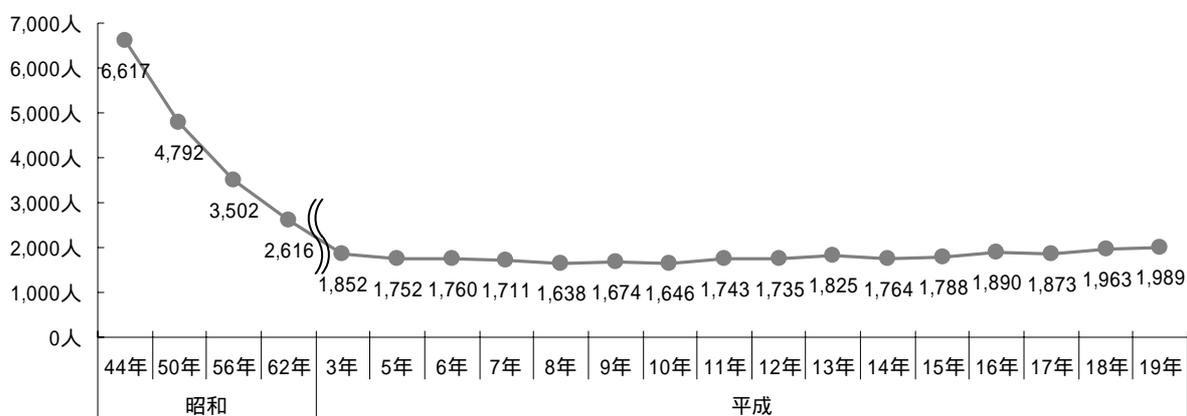
3 . 子どもに関する人口の状況

3 - 1 出生数の推移 (グラフを一部修正)

昭和 44 年に生まれた子どもの数は 6,617 人でした。区の出生数はその後減少が続き、平成 3 年には、2,000 人を割りました。

平成 3 年より平成 8 年にかけて、出生数は減少し続けましたが、平成 9 年よりは微増に転じ、年によって増減はあるものの、平成 14 年からは微増が続いています。

【出生数の推移】



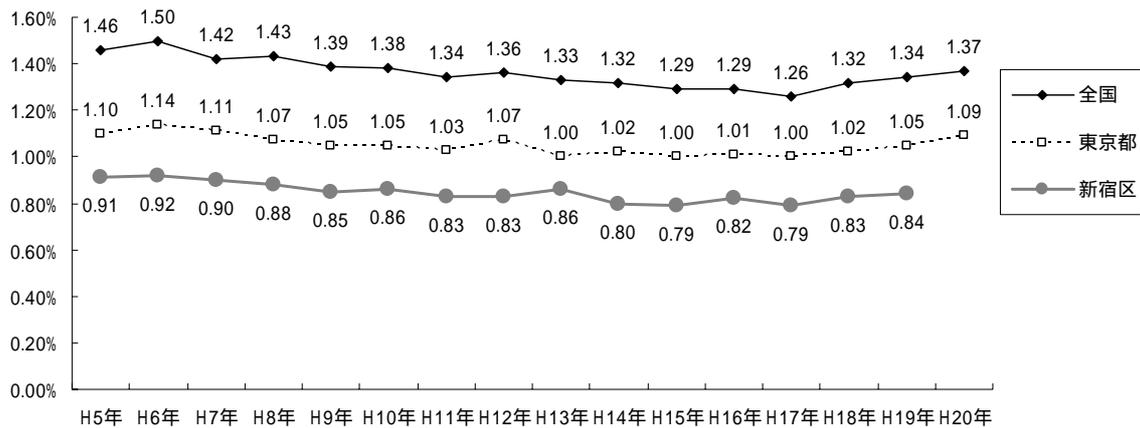
出典：新宿区「新宿区の概況」各年

3 - 2 合計特殊出生率（20年データを追加）

新宿区の合計特殊出生率は、全国の都道府県で最も低い東京都の中でも、さらに低い値で推移しています。

平成 15 年、平成 17 年に合計特殊出生率は 0.8 を割りましたが、平成 18 年よりは、0.8 以上で推移しています。

【合計特殊出生率の推移】



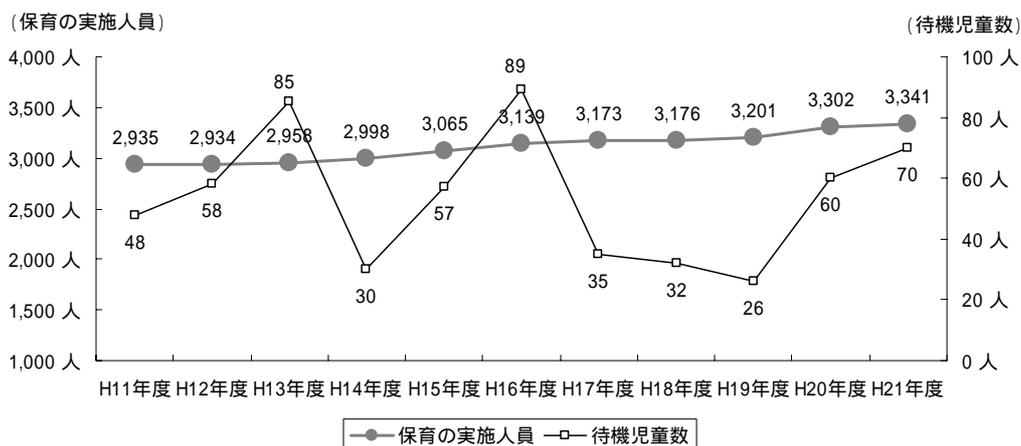
新宿区の平成 20 年の合計特殊出生率は 2009 年 7 月現在で未確定のため非掲載とする
 出典：東京都、新宿区の合計特殊出生率：東京都福祉保健局「人口動態統計」
 全国の合計特殊出生率：厚生労働省「人口動態統計 年報」

4 . 子育て支援サービスの実施状況

4 - 2 保育の実施人員、待機児童数の推移（保育の実施人員の数値を修正）

保育の実施人員は一貫して増加していますが、待機児童数が50名を超える年度があり、平成20年、21年度も50名を超えています。

【保育の実施人員】（4月1日現在）



出典：保育の実施人員：新宿区「新宿区の概況」各年
待機児童数：新宿区子ども家庭部保育課資料

4 - 4 3 ~ 5 歳児の保育サービスの実施状況（新規追加）

区立、私立を合わせた保育園園児数は、平成 17 年より大幅な増減はありません。一方幼稚園園児数は平成 17 年より各年減少が続いています。

年齢別にみると、区立保育園では平成 17 年より 4、5 歳の園児数が減少し、合計は減少傾向です。私立保育園では 3 歳、5 歳児が増加し、合計が増加傾向となっています。

区立幼稚園は平成 17 年より、3 ~ 5 歳の園児数全てが減少し、合計も減少しています。私立幼稚園では、3 歳児が増加しましたが、5 歳児が減少したことから、合計も減少傾向となっています。

【3 ~ 5 歳児の保育サービスの実施状況】

	保育園園児数(人) (3 ~ 5 歳児合計)			幼稚園園児数(人)			認定子ども園 園児数(人) (3 ~ 5 歳合計)
	区立	私立	合計	区立	私立	合計	
平成 17 年	1,322	525	1,847	1,251	1,142	2,393	
平成 18 年	1,321	509	1,830	1,185	1,127	2,312	
平成 19 年	1,261	561	1,822	1,093	1,111	2,204	106
平成 20 年	1,264	577	1,841	1,014	1,118	2,132	119

【3 ~ 5 歳児の保育サービスの実施状況（保育園）】

	区立 保育園園児数(人)				私立 保育園園児数(人)			
	3 歳	4 歳	5 歳	合計	3 歳	4 歳	5 歳	合計
平成 17 年	440	445	437	1,322	178	169	178	525
平成 18 年	450	436	435	1,321	175	173	161	509
平成 19 年	438	412	411	1,261	181	192	188	561
平成 20 年	453	396	415	1,264	199	187	191	577

【3 ~ 5 歳児の保育サービスの実施状況（幼稚園）】

	区立 幼稚園園児数(人)				私立 幼稚園園児数(人)				
	3 歳	4 歳	5 歳	合計	満3 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合計
平成 17 年	217	482	552	1,251	1	382	388	371	1,142
平成 18 年	211	479	495	1,185	3	368	385	371	1,127
平成 19 年	210	405	478	1,093	0	380	352	379	1,111
平成 20 年	208	401	405	1,014	2	400	385	331	1,118

保育園在園児数は各年 4 月 1 日の 3 歳 ~ 5 歳児の合計数。幼稚園園児数は各年 5 月 1 日。
私立幼稚園園児数には満 3 歳児を含む。

認定子ども園は平成 19 年より開園。園児数は各年 5 月 1 日の 3 歳 ~ 5 歳児の合計数。

出典：保育園在園児数：新宿区資料 / 幼稚園、認定子ども園園児数：新宿区「新宿区の概況」平成 20 年

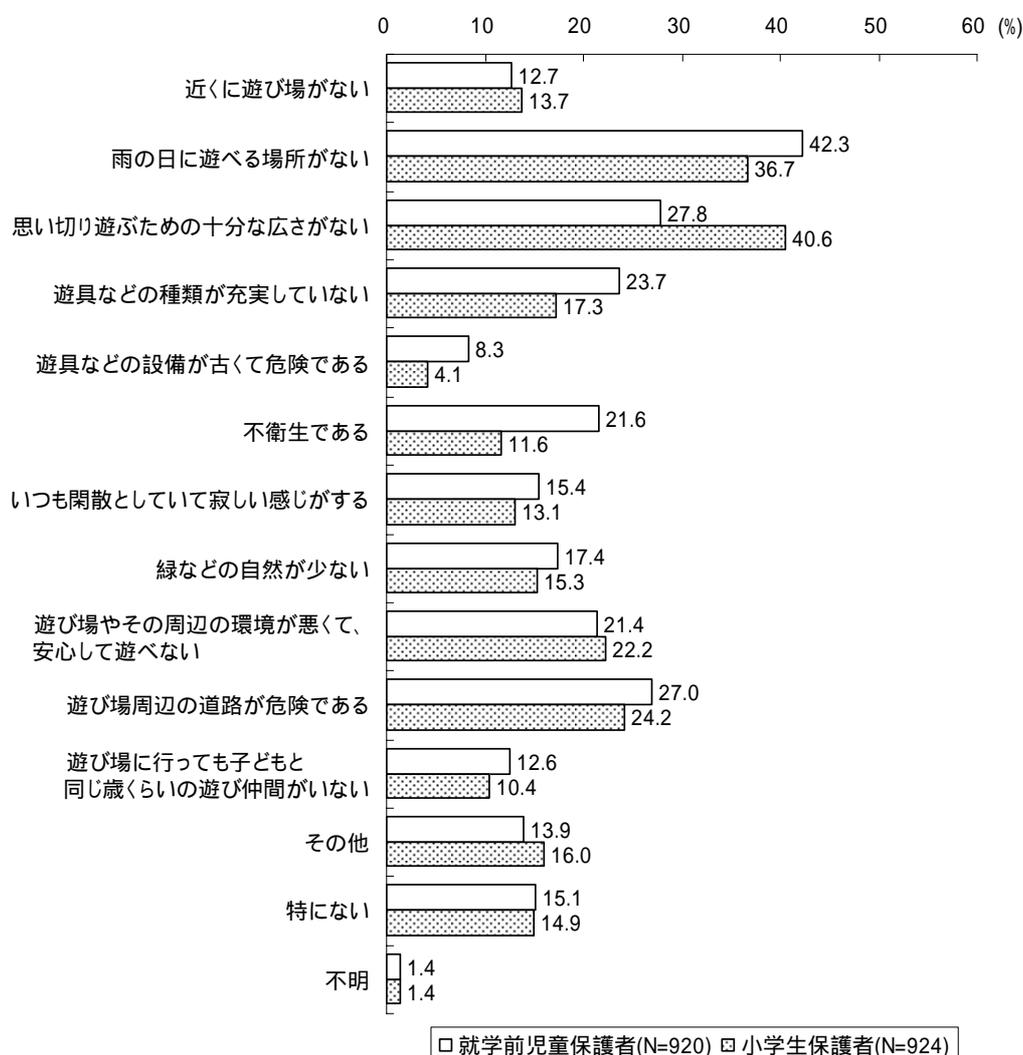
5 . 次世代育成支援に関する調査結果

5 - 1 8 子どもの遊び場（新規追加）

就学前児童の保護者では「雨の日に遊べる場所がない」が42.3%で最も割合が高く、次いで「思い切り遊ぶための十分な広さがない」が27.8%となっています。

小学生の保護者では「思い切り遊ぶための十分な広さがない」が40.6%で最も割合が高く、次いで「雨の日に遊べる場所がない」が36.7%となっています。

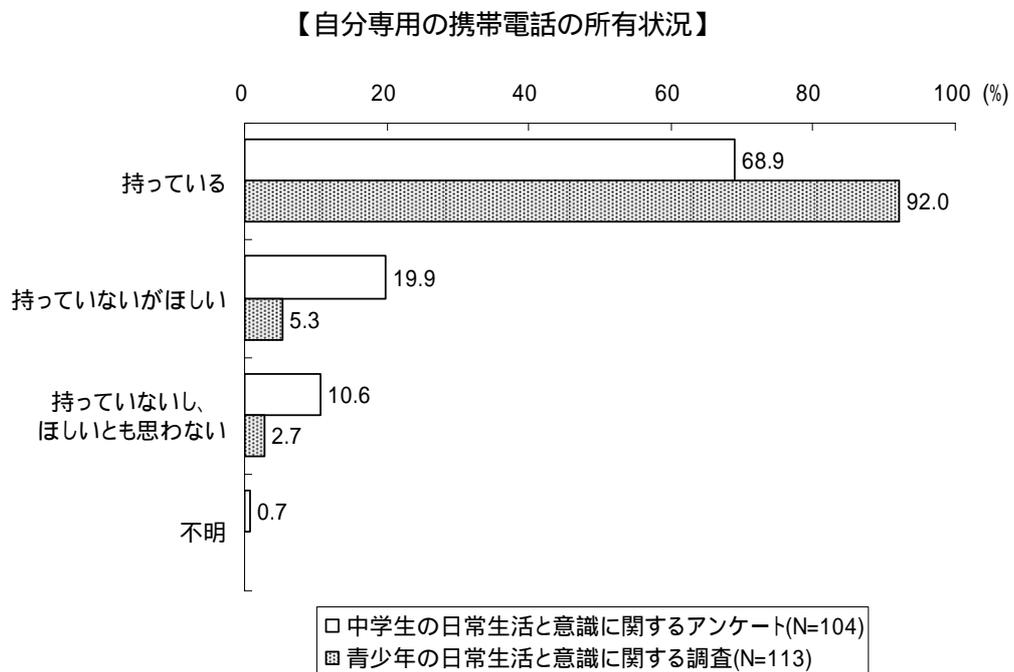
【子どもの遊び場で困っていること】



出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査」平成20年

5 - 19 携帯電話の利用状況（新規追加）

中学生では 68.9%、区内在住の 15～17 歳までの男女では 92.0%が「持っている」となっています。



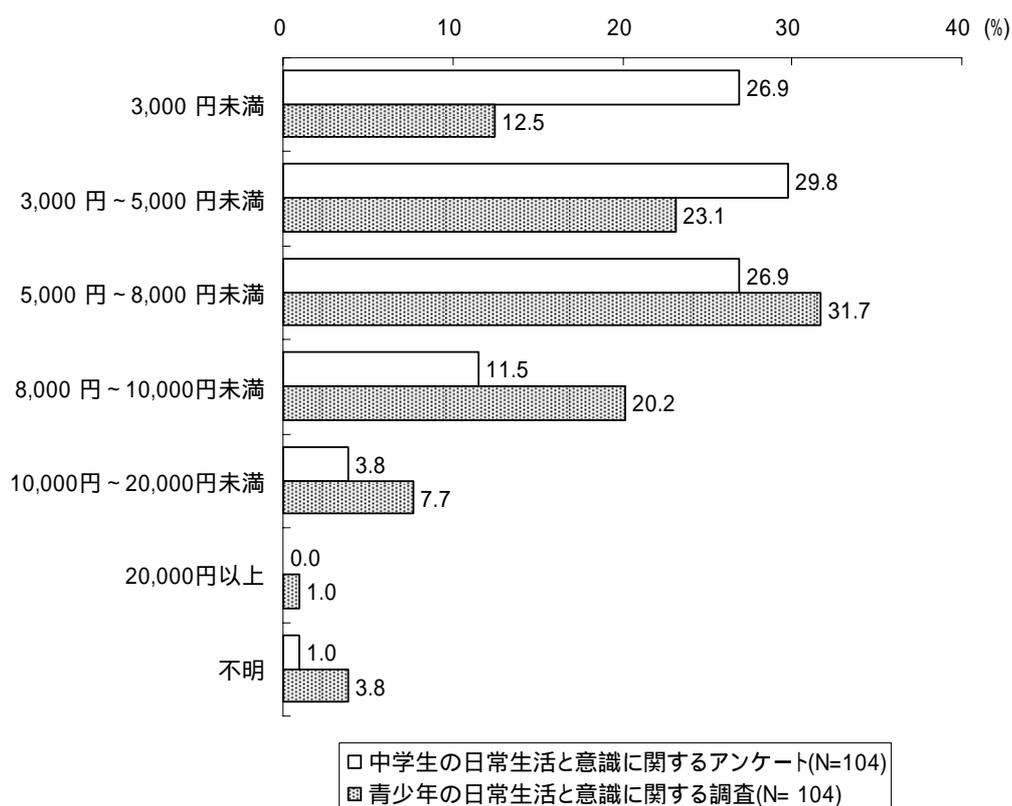
出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査」平成 20 年

5 - 2 0 携帯電話の使用料（新規追加）

中学生では「3,000 円～5,000 円未満」が 29.8%で、最も割合が高く、次いで「3,000 円未満」が 26.9%となっています。

区内在住の 15～17 歳までの男女では「5,000 円～8,000 円未満」が 31.7%で、最も割合が高く、次いで「3,000 円～5,000 円未満」となっています。

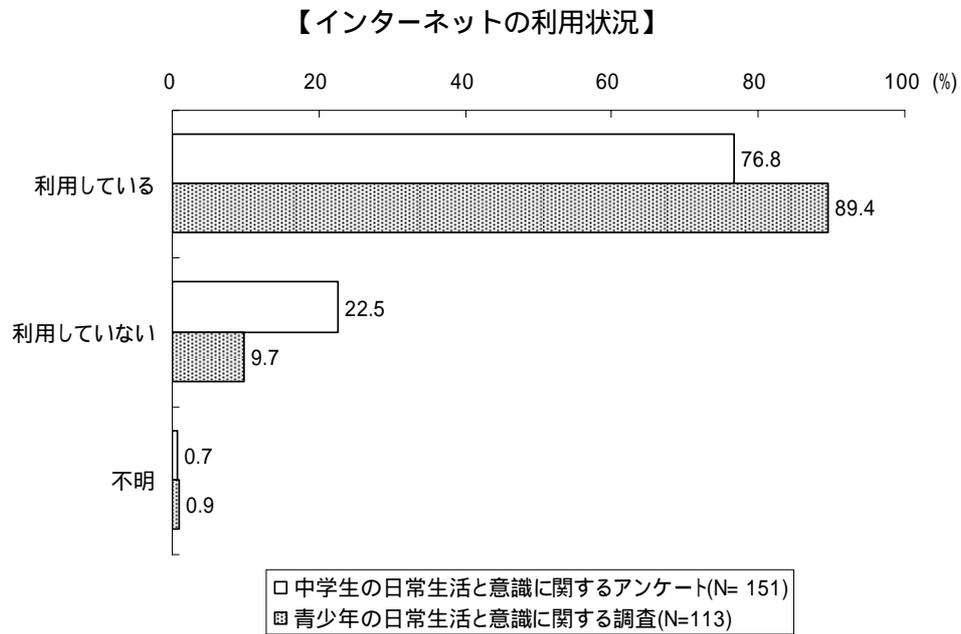
【携帯電話の1ヶ月の使用料】



出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査」平成 20 年

5 - 2 1 インターネットの利用状況（新規追加）

中学生では 76.8%、区内在住の 15～17 歳までの男女では 89.4%が「利用している」となっています。



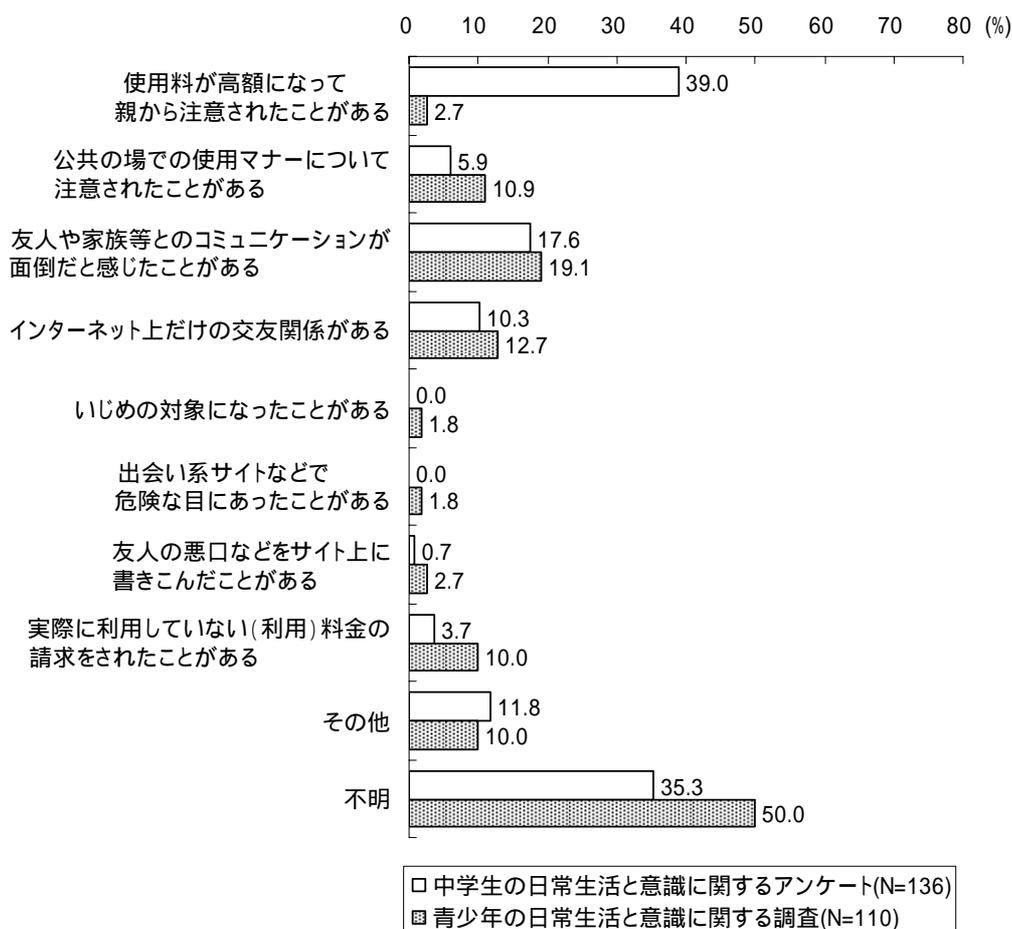
出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査（中学生の日常生活と意識に関するアンケート）」平成 20 年

5 - 2 2 携帯電話やパソコンの使用について困ったこと（新規追加）

中学生では「使用料が高額になって親から注意されたことがある」が39.0%で最も割合が高く、他の回答からも突出した割合となっています。次いで「友人や家族等とのコミュニケーションが面倒だと感じたことがある」が17.6%となっています。

区内在住の15～17歳までの男女では「友人や家族等とのコミュニケーションが面倒だと感じたことがある」が19.1%、次いで「インターネット上だけの交友関係がある」が12.7%となっています。

【携帯電話やパソコンの使用について困ったこと】



出典：新宿区「次世代育成支援に関する調査」平成20年